

第7回成果発表会「防災研究5年間の総括」を開催

防災科研は、2月25日(金)に東京国際フォーラムB5ホールで、第7回成果発表会「防災研究5年間の総括」を開催しました。今回の成果発表会では、岡田理事長の開会挨拶、加藤文部科学省大臣官房審議官の来賓挨拶に引き続き、第1部では、「地震・火山災害軽減への挑戦」というテーマの下、「地震観測データを利用した地殻活動の評価・予測に関する研究」、「基盤的火山観測施設の整備と火山噴火予知研究の新しい展開」、「Eーディフェンスの活動ーこれまでとこれからー」と題して3件の講演が行われました。その後、ポスター展示を挟んで、第2部では、河田恵昭 関西大学社会安全学部長により「複合災害による首都壊滅」と題する特別講演が行われました。さらに、第3部では、「安全な社会の構築をめざして」というテーマの下、「雪氷災害の防止と被害軽減のための予測システム開発」、「極端気象に強い都市

創りー社会実験を通じた早期検知・予測システムの開発」、「災害リスク情報プラットフォームの開発」と題する3件の講演が行われました。

今回の成果発表会には、様々な機関より約300名の参加者があり、防災科研の最近の研究成果や研究動向に熱心に耳を傾けていました。加藤審議官は来賓挨拶で、防災科研は災害対策基本法に基づく指定公共機関や豪雪地帯対策基本計画における公的研究機関など、防災分野における我が国の中核研究機関として、多くの研究開発の実績を挙げており、今後も、これまで以上に研究開発の成果を挙げることへの期待を述べられました。

なお、講演概要集は、Web ページよりご覧ください。

<http://dil.bosai.go.jp/publication/>



写真1 開会挨拶をする岡田理事長



写真2 来賓挨拶をする加藤審議官



写真3 特別講演をする河田関西大学社会安全学部長



写真4 ポスター展示会場の様子(右端の2枚のポスターは、2011年霧島山(新燃岳)噴火と2011年2月22日ニュージーランド南島地震についての速報)

和達記念ホールで「緊急報告会－東日本大震災への対応－」を開催



質問に答える岡田理事長



質問に答える長坂プロジェクトディレクター



満員の和達記念ホール

当研究所は、4月17日に、つくば本所の和達記念ホールにて、「緊急報告会－東日本大震災への対応－」を開催しました。まず、参加者全員で今回の大震災の被災者に黙祷を捧げた後、文部科学省研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室 南山力生室長が開会の挨拶を行いました。それに引き続き、第1部では、岡田義光理事長が「東北地方太平洋沖地震の概要とその地球科学的影響について」、青井真地震・火山観測データセンター長が「地震観測網が捉えた地震動及び現地観測点の津波被害状況」、東京大学地震研究所 佐竹健治教授が「東北地方太平洋沖地震の津波について：過去の津波との比較も含めて」と題する3件の講演を行い、今回の地震・津波に関する最新の地球科学的知見について説明しました。

休憩を挟んで第2部では、関口宏二アウトリー

チ・国際研究推進センター アウトリーチグループリーダーが「身近な安全のために～オフィスの室内安全、石塀の倒壊など～」、放射線医学総合研究所放射線防護研究センター 神田玲子 主席研究員が「原子力事故と放射線リスクについて」、災害リスク研究ユニット 長坂俊成プロジェクトディレクターが「被災地を支援する情報基盤 ALL311: 東日本大震災協働情報プラットフォーム」と題する3件の講演を行い、最後に石井利和理事が閉会の挨拶を述べました。

本講演会には約250名の参加者が集い、今回の大震災に関する整理された最新の知見を熱心に聴講するとともに活発な質問が行われました。なお、本講演会の講演資料と講演動画は当研究所のWebにて公開しています。

<http://www.bosai.go.jp/report311.html>

行事開催報告

第5回シンポジウム「統合化地下構造データベースの構築 ～プロジェクト5か年の研究成果報告と地盤情報のさらなる利活用に向けて～」

当研究所は、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人土木研究所、社団法人地盤工学会と共催で「第5回シンポジウム 統合化地下構造データベースの構築 ―プロジェクト5か年の研究成果報告と地盤情報のさらなる利活用に向けて―」を、3月10日に東京国際フォーラム D7ホールで開催しました。

本シンポジウムは、平成18年度より実施してきた科学技術振興調整費重要課題解決型研究「統合化地下構造データベースの構築」の研究成果を広く社会に公開すると共に、地下構造に関する情報が国民共有の公的財産であるという認識のもと、地下構造データベースのあるべき姿と今後の方向性を検討していく場として位置づけてきました。

今回のシンポジウムでは、研究プロジェクトの最終年度に当たるため、これまでの研究成果の

最終報告を各参画機関より行うとともに、地盤情報のさらなる利活用についての討論を行い、今後の利活用の展望や次のステップに向けての課題の抽出などを行いました。

また、会場では、研究内容を紹介するパネルも展示し、大変盛況でした。



シンポジウムの様子

行事開催報告

第15回「自治体総合フェア」に出展

7月13～15日に東京ビックサイトで、社団法人日本経営協会主催により第15回「自治体総合フェア2011」が開催され、延べ11,220名の参加者を集めました。当研究所は、展示では「全国地震動予測地図」「地震ハザードステーション J-SHIS」「統合化地下構造データベース」「ジオ・ステーション」「第2回防災コンテスト(防災ラジオドラマ、e防災マップ)」「東日本大震災における活動事例」の紹介をしました。出展団体発表では、社会防災システム研究領域 長坂俊成プロジェクトディレクターが、「災害リスク情報プラットフォームを活用した被災地支援 ～東日本大震災における官民連携による災害情報の相互運用～」と題して講演し、自治体の罹災証明発行、がれき撤去管理、復興計画策定支援、災害ボランティアセンターの

運営支援等における有効性と課題について紹介し、参加者の大きな関心を集めました。



写真1 出展ブースの様子



写真2 長坂PDの講演の様子

行事開催報告

真夏の防災教育を実施 サマー・サイエンスキャンプとつくばちびっ子博士

8月1日～3日の3日間、つくば本所で「サマー・サイエンスキャンプ」が開催され、東日本大震災の被災地を含む全国から20名の高校生たちが集まりました。施設見学の後に、「地震を知る技術」「防災と3D」「土砂災害の実験教室」「火山が噴火する仕組み」「地域発防災ラジオドラマを作ろう」「竜巻の発生原理と製作実習」「Dr.ナダレンジャーの自然災害実験教室」の7つの講座が開講されました。

閉講式では、各班より、防災ラジオドラマが披露され、出席した講師陣や運営スタッフは高校生たちのフレッシュな感覚に、大きな刺激を与えられました。なお、所定の講座の合間に、岡田理

事長と関口アウトリーチグループリーダーより、東日本大震災の概要と防災科研の主な地震防災研究に関する特別講義が行われました。20名の高校生たちは、それぞれ、充実した体験をし、3日間で大きく成長した様子でした。

開催報告 http://www.bosai.go.jp/news/report/20110916_01.pdf

また、つくばちびっ子博士の一環として、夏休み期間中の4日間、計8回の「Dr.ナダレンジャーの真夏の自然災害実験教室」を開催しました。1,661名の参加者が納口総括主任研究員扮するDr.ナダレンジャーにくぎづけでした。

開催報告 http://www.bosai.go.jp/news/report/20111011_01.pdf



写真1 集合写真(サイエンスキャンプ)



写真2 つくばちびっ子博士

行事開催報告

雪氷防災研究センターと新庄支所の一般公開

雪氷防災研究センター(新潟県長岡市)では、科学技術週間一般公開を4月22日(金)午後と23日(土)の2日間にわたり開催し、262人の来場がありました。雪雲を観測するレーダーをはじめ降雪・積雪を研究する各種施設の見学のほか、 -20°C の低温室内で凍るシャボン玉の実験などを体験してもらいました。平成23年の豪雪による家屋倒壊などの被害状況をまとめたパネル展示や、雪氷災害を予測し軽減するための研究の紹介も行いました。真夏の開催が恒例となった同センター新庄支所の一般公開を8月6日(土)に実施し、223人が来場しました。天然と同様の形の雪を降らせることのできる世界最大規模の降雪装置を備えた雪氷防災実験棟の低温室の中で、来場者は雪の結

晶の形を観察したり、人工の吹雪を体験したりして歓声を上げていました。



シャボン玉も凍る -20°C の低温室



降雪装置の下で人工吹雪の体験

2011年度雪氷防災研究講演会 –平成23年の豪雪を振り返る–

防災科研は、11月9日に山形市において標記講演会を国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、山形県、克雪技術研究協議会、(社)日本雪氷学会東北支部の後援により開催しました。本講演会は、雪氷災害に対する取り組みや最近の研究について紹介するもので、今回が51回目となります。国、自治体、関係機関等から70名の参加がありました。

岡田理事長の開会挨拶の後、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の小倉課長が「国道112号の雪氷災害対策について」と題し、昨冬の豪雪で生じた雪崩災害と当研究所が協力してきた対策などについて講演を行いました。次の、東北電力株式会社山形支店の坂田部長の

講演「送電設備の雪害と対策について」では、送電線などに起こる雪害の種類とメカニズム、そしてその対策の実施状況と課題が紹介されました。続いて、東北芸術工科大学の山畑教授は、山形県内各地の屋根雪処理に関する調査結果と家を建てる際の注意事項を知る方法をまとめた「屋根雪処理チェックシートの作成について」と題した講演を行いました。当研究所からは中井総括主任研究員と平島主任研究員が、平成23年の集中豪雪の解析結果と雪崩発生危険度予測研究の現状についてそれぞれ紹介しました。講演後、参加者から雪崩の予測精度などについて質問があり、道路の安全管理等への実用に向けた熱心な討論が行われました。

受賞報告

齊藤研究員が日本地震学会若手学術奨励賞を受賞



観測・予測研究領域 地震・火山防災研究ユニットの齊藤竜彦研究員が「地震・津波の波動現象に関する理論的研究」により、2010年度日本地震学会若手学術奨励賞を受賞し、5月の地球惑星科学連合大会期間中に授賞式が行われました。本賞は、すぐれた研究により地震学の分野で特に顕著な業績をあげた若手会員を対象とした賞です。

清水文健客員研究員が平成23年度社団法人日本地すべり学会谷口賞を受賞

清水文健客員研究員(前総合防災研究部門総括主任研究員)が、「5万分の1地すべり地形図の作成」ほか一連の関連する諸論文により、平成23年度社団法人日本地すべり学会谷口賞を受賞しました。本賞は、多年にわたり地すべり防止技術の発展に貢献したと認められた研究者・グループに与えられるものです。



受賞報告

「国道112号雪崩災害対策への功績」により東北地方整備局災害対策功労者表彰を受賞

当研究所は、「国道112号雪崩災害対策への功績」により平成23年度東北地方整備局災害対策功労者表彰を受賞し、平成23年7月29日に仙台国際センターにて表彰式が行われました。この受賞は、平成23年2月27日、国道112号で雪崩災害が発生した際に、雪氷防災研究センター新庄支所が、いち早く駆けつけ他機関と協力して発生要因の解明と安全対策の助言を行ったことにより、被災地域の復旧等に多大な貢献があったと認められたものです。



国道112号の雪崩災害対策の様子



授賞式の様子(部分)
後列右から2人目が阿部
修新庄支所長

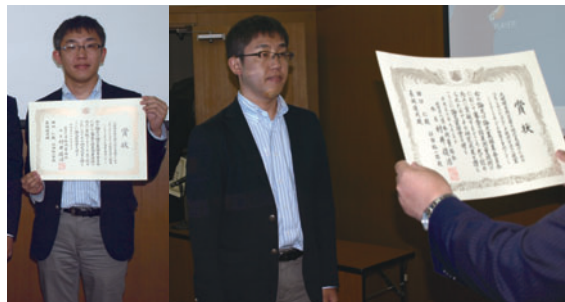
社会防災システム研究領域の田口研究員らが応用測量論文奨励賞を受賞

社会防災システム研究領域の田口仁研究員、白田裕一郎主任研究員、長坂俊成主任研究員の3名が(社)日本測量学会の応用測量論文奨励賞を受賞し、9月20日の応用測量技術研究発表会で表彰式が行われました。応用測量論文奨励賞は、応用測量論文集に掲載された査読論文の中で優秀な論文について、応用測量論文集編集委員会より与えられる賞です。

受賞論文

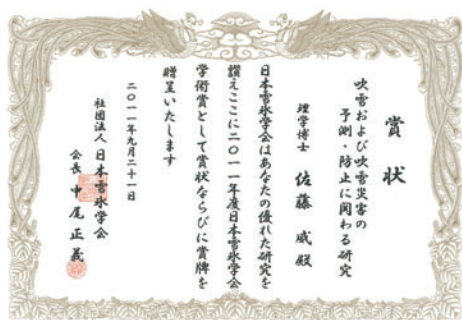
田口仁, 白田裕一郎, 長坂俊成, (2011)「大規模自然災

害の対応支援のためのリモートセンシングデータ提供方法の一提案: 2010年ハイチ地震を事例として」応用測量論文集, 22, 53-63.



(社)日本測量協会提供

佐藤雪氷防災研究センター長が日本雪氷学会学術賞を受賞



佐藤威 雪氷防災研究センター長が、「吹雪および吹雪災害の予測・防止に関わる研究」により

2011年度雪氷学会学術賞を受賞し、9月19～23日に長岡市で開催された雪氷研究大会で授賞式が行われました。本賞は、雪氷に係る学術の進展に顕著な功績のあった研究者に与えられるものです。

主要論文

佐藤 威, 2003: 吹雪の風洞実験について. 雪氷, 65(3), 279-285. 佐藤 威・東浦将夫, 2003: 吹雪跳躍層の鉛直構造と気象・積雪条件の関係. 雪氷, 65(3), 197-206. 佐藤 威・望月重人・小杉健二・根本征樹, 2005: スノー・パーティクル・カウンター(SPC)による飛雪流量測定に及ぼす飛雪粒子の形状の影響. 雪氷, 67(6), 493-503.

災害リスク研究ユニットの開発チームが「eコミュニティ・プラットフォーム」の開発で地理情報システム学会賞を受賞

社会防災システム研究領域の長坂俊成プロジェクトディレクターを代表とするチームが開発した「eコミマップ」が、2011年度地理情報システム学会賞(ソフトウェア部門)を受賞し、10月15日に鹿児島市で開催された地理情報システム学会で授賞式が行われました。本賞は、地理情報科学に関する研究に基づき、有用なシステムソフトウェア、ツール・ライブラリなど(以下ソフトウェア)を開発し、広く公開することにより地理情報科学の発展に貢献した功績を表彰するもので、これらソフトウェアのさらなる開発と公開を促進することを目的としています。

対象ソフトウェア名:「eコミマップ」

開発チーム:長坂俊成、田口仁、白田裕一郎、岡田信也、須永洋平、李泰榮、坪川博彰(社会防災システム研究領域災害リスク研究ユニット)

○防災科研「主な研究成果」のページ

http://www.bosai.go.jp/koho/Result_7.html



研究最前線

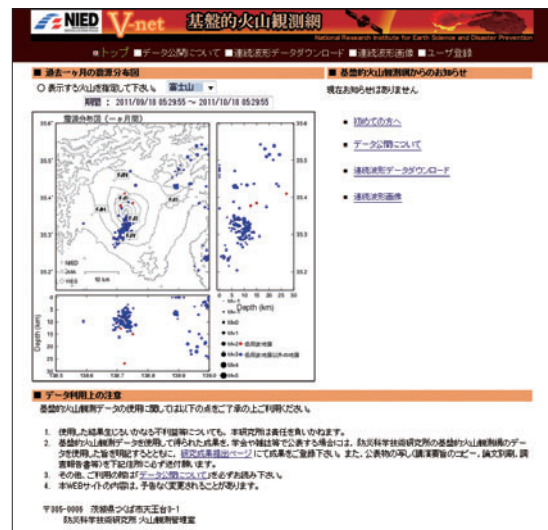
基盤的火山観測網データの公開ページ開設

防災科研は火山噴火予知連絡会の「火山観測体制等に関する検討会」での議論に基づき、基盤的火山観測網(V-net) および気象庁が運用する火山観測網データの公開を始めました。

これまで触れる機会が少なかった火山の観測データを一般の方々へ公開することにより、地方自治体による火山対策や学校教育への利用、さらには火山観測機器を持ち合わせていない大学でも研究が可能となることから、火山防災や火山研究のすそ野が拡大することや若手研究者の育成などへの貢献が期待されます。

本サイトでは各観測点の連続波形画像に関してはどなたでも閲覧可能ですが、データ利用にはユーザー登録が必要です。データ利用のルールを遵守された上でご活用ください。

本ページへのアクセスは、防災科研のトップペー



本サイトのトップページ

ジから観測調査情報→火山→基盤的火山観測網と辿っていきます。

URL <http://www.vnet.bosai.go.jp>

編集・発行



独立行政法人

防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 アウトリーチグループ

TEL.029-863-7783 FAX.029-851-1622

URL : <http://www.bosai.go.jp/> e-mail : toiawase@bosai.go.jp

発行日

2012年1月31日発行 ※防災科研ニュースはホームページでもご覧いただけます。

